

2020年2月18日

2020年3月期第3四半期決算説明会 質疑応答要旨

1. 中国のAPが好調に推移しているなか、新型コロナウイルスにより現在上海工場での様な影響がでているのか。そして今期4Qの影響についてどの程度考慮しているのか。国内の調達にも影響がでているのか伺いたい

→中国の現地法人（日工上海）は、2月18日時点でまだ生産は再開しておらず、再開の目処もたっていない。この影響は今後出てこようが、例年日工上海の1～3月の売上はほぼゼロに等しいため2019年度の決算に対する影響はほぼない。

→2020年度の日工上海への影響は、この状態が更に1ヶ月や2ヶ月継続するとかなり出ると考えられる。1～3月は春節を挟んでいる関係もあり、営業活動はスローな時期である。しかし、昨年12月時点の受注残高はそれなりに抱えており、工場停止により生産が一切できていないため受注残高をこなしていく製造、設置工事などすべてが遅れるので、当初予定していたタイミングでの納入、売上がずれていく。現時点でどれだけの影響というのは言い難いが、2020年度は影響が出ると予想している。

→国内の調達については、中国から直接購入しているものは多くなく、現状においてサプライチェーンの中で物が入らず製造に影響をきたすものはない。この状況が長く続くと影響が出てくるとは思うが、2～3週間程度でとどまるのであれば、十分在庫も持っており問題ないと考えている。

2. BPの実績であるが、受注が良くなっているが市況が良くないなかで価格を多少勝負しても取っていくという話があったが、想定内のシェアは取れているのか。今は受注を取っているが受注採算が悪化しており、来期の営業利益率が悪化するのか伺いたい

→まず、想定内のシェアはBPで取れている。今期については大型の特殊物件があり、これが赤字だったため全体の営業利益が引き下げられた。なお、今期受注をして来期売上になる物件の想定マージンを見ると、今期よりは高い状況である。

その特殊物件は今期に売上計上が終わっているのか

→実績として数字に反映されている。

3. 経常利益増減の要因分析の原価改善についてだが、上期累計が2.5億円プラスだったことに対し3Q累計1.8億円プラスになったということは、3Qは悪化しているがこれはメンテナンスが少ないからなのか伺いたい

→メンテナンスの売上が3Qは極端に少ないため、3Qは2Qより原価改善が悪くなった。当社は原価率の変動について、仕入れ価格や生産効率よりも売上高の構成比変化によるものが大きい。

4. 3Q迄のメンテナンス減少分を4Qで取り戻すとのことであったが、お客様のニーズは4Qにあるのか

→4Qは1月と3月で2つのメンテナンスの山がある。1月の年末年始の工事は予定どおり実績があがっている。3月も現在の受注状況を見てみると、十分数字は行くと考えている。

5. 基本的にタイのAPマーケットは中古が多いと思われるが、タイの子会社は新品を売っていくのか伺いたい

→説明会資料5ページの下部にタイ現地法人の収益計画を記載しているが、APの新品を1台1億円で計算している。中古は1台43百万円で計算した金額を書いている。すなわち、5年後に新品10台、中古で4台を計画している。我々の戦略としては新品を主体に販売していく。

お客様は今までAPの中古しか買っていないが、多少高くても新品を買ってくれるだけの余裕があるのか、新品の良さを時間を掛けてお客様にすり込みしていくのか。お客様の心理を中古から新品へ変えるため、どの様なことをおこなうのか

→タイは現在、少し景気が良くないものの、10年や20年前と比較すれば明らかに国自体の経済力が上がっており、道路予算もかなりついている。お客様の資金力は他の東南アジアの国と比べると豊富であり、過去と比べても購入する力がつきつつある。お金に余裕ができたことにより、10年以上前に日工の中古しか買えなかったお客様も次に買い替えたいときに価格差が倍程度であれば十分買うことができる。中古品で20年使える、新品で40年使えるということならば、価格が2倍でもお客様として十分買う価値があると思うので、相当時間を掛けてすり込まずとも、そう難しいとは思わない。

(注)本質疑応答要旨は決算説明会に参加されなかった方への情報提供も含めておこなっていますが、その内容につきましては理解し易いように一部で加筆・修正していますことをご承知おき下さい。